



地域と生きる

おなが病院・おかがき病院だより

令和7年秋の叙勲「瑞宝中綬章」受章に際して



遠賀中間医師会から推薦して頂き、2025年11月の文化の日
に皇居で瑞宝中綬章を頂きました。身に余る光栄なことで
ありますが、これは遠賀中間医師会病院の職員の皆様方を代表
して私が頂いたものと理解しています。

私は、九州大学病院で外科医として30年間、アメリカで
1年間、九州中央病院で8年間、勤務した後、2010年4月か
ら遠賀中間医師会おなが病院・おかがき病院に赴任し、15年
間が過ぎました。

私が医師会病院に赴任した時は、赤字が数十年続いていた福岡県立遠賀病院を
遠賀中間医師会が引き受けたばかりの時であり、経営
がまだ軌道に乗っていなかったもので、暫くは、経営の
立て直しに取り組みました。

医療業界は不況産業と言われる中、訪問診療、訪問
看護・リハビリなどの在宅医療や住民・職場健診など
にも力を入れ、医師会の皆様方ご支援をいただき、
昨今は、経営は見違えるように改善いたしました。



服部知事と 叙勲授与式にて

瑞宝中綬章受章の受章を機に病院の更なる発展をお祈り致します。

遠賀中間医師会病院顧問 杉町圭蔵



地域包括医療病棟について

おなが病院は、令和7年6月1日より、3階及び4階病棟を「地域包括医療病棟」として運用を開始いたしました。

地域包括医療病棟は、高齢者を中心とした救急患者を受け入れ、リハビリや栄養管理、退院支援を包括的に行う新しい病棟区分です。2024年度診療報酬改定で創設され、急性期治療と在宅復帰の橋渡しを担う役割を持っています。

地域包括医療病棟の背景と目的

日本は急速な高齢化に伴い、救急搬送される高齢患者が増加しています。従来は急性期病棟が受け入れていましたが、リハビリやADL（日常生活動作）維持の機能が不足しているとの課題がありました。そこで新設されたのが「地域包括医療病棟」です。入院治療や生活支援が必要な患者を対象に、医療とケアを一体的に提供する仕組みです。

特徴と機能

対象患者：高齢者救急患者、多疾患併存の方、在宅復帰を目指し、医療、看護、リハビリを必要とする方。

看護配置：10対1を基本とし、リハビリスタッフや管理栄養士の配置が必須

提供機能：リハビリテーションによる早期回復支援

栄養管理・口腔ケアによる健康維持

入退院支援と在宅復帰支援

入院料：1日の入院料が3,050点（90日まで）となります。それ以外に、手術やリハビリ等が合算されます。

これにより、救急と在宅復帰の橋渡しを担う病棟として位置づけられています。

地域包括ケア病棟との違い

地域包括ケア病棟は、急性期治療を終えた患者や在宅療養中の患者を対象に「在宅復帰支援」を中心としています。一方、地域包括医療病棟は救急搬送の受け入れを主目的とし、急性期と在宅の間を埋める「セーフティネット」として設計されています。

現状と展望

2025年11月時点で、全国220病院・11,383床が地域包括医療病棟を算定しており、導入は拡大傾向にあります。高齢者救急の受け皿として、地域医療体制の安定化に寄与することが期待されています。今後は急性期病棟や地域包括ケア病棟との役割分担を明確化し、より効率的な医療提供体制を構築することが課題です。

まとめ

地域包括医療病棟は、高齢者救急患者を受け入れ、医療と生活支援を包括的に提供する新しい病棟です。急性期病棟の負担軽減と在宅復帰支援を両立させることで、地域医療の持続可能性を高める重要な役割を担っています。



令和7年度 忘年会を開催しました

遠賀中間医師会病院の忘年会を開催しました
医師会の先生方、おんが病院、おかがき病院職員
含め、総勢 340 名と非常に賑やかな会でした。

「ぶどうの樹」での食事を楽しみながら、恒例の出し物
やくじ引きで大いに盛り上がり、

今年の出来事や来年の抱負について語りました。

職員同士の絆もより一層深まったと思います。



にこにこクラブのお楽しみ会

にこにこクラブでは 12 月 18 日に創作活
動で「クリスマスカード」作りを実施しまし
た。レースペーパー等を使用し個性豊かな可
愛いオリジナルのカードが完成しました。

また、「クリスマス会」では「ダンス」や
「南京玉すだれ」「ハンドベル」に歌等の催
し物があり、多くの笑顔が見られ楽しいひとときを過ごしました。



<クリスマス会>



「ハンドベル」♪
きよしこの夜演奏



笑顔で「はいチーズ」
サンタになってみました

次回は2月に「おやつ作り」を予定し
ています。

どうぞお楽しみに・・・(*^▽^*)

寒さが一段と体にしみる季節となっ
てきましたが、
皆様お身体にお気をつけてお過ごし
ください。

地域包括ケア病棟のご案内

手術や検査が終了した後、すぐに在宅や施設へ移るには不安のある患者さんに対して、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰に向けて『準備をしっかりと整える』ための病棟です。

ご自宅や施設で急に具合が悪くなった方も受け入れています。

多職種協働で、自宅や施設で暮らせるまでの支援と橋渡しを行っています。

入院期間は状態に応じ調整いたしますが、入院期間の限度は入院から合計60日となります。

1. ご自宅や施設で療養されている方で軽微な症状で入院治療が必要な方
2. 急性期の治療終了後、もう少し経過観察が必要な方
3. 在宅復帰へ向けて積極的なリハビリが必要な方
4. 在宅生活に向けて準備が必要な方
(介護の指導、住宅改修、家族に不安があり様子を見ながら自宅へ帰る準備をすすめていきたい方等)
5. 医療的処置(痰の吸引・点滴・褥瘡等)の為、直ぐには介護施設でのショートステイ利用が困難な方
6. 福祉施設(有料老人ホームや特別養護老人ホーム等)入所準備中の方
7. レスパイト入院が必要な方 等々

レスパイト入院

※レスパイト(respite)とは、『一時休止』『休息』『息抜き』という意味です。

退院後は自宅に戻ること、介護保険ではなく医療保険を使用することが特徴です。

たとえば、こんなお困りの時に



冠婚葬祭



介護者の病気・入院・出産



遠方へ出張・旅行等



家族の介護疲れ

(一時的に在宅介護が困難になる場合)

入院対象者



褥瘡処置



痰の吸引



麻薬の管理



胃ろう



気管切開



点滴



在宅酸素などの

医療的処置を行っている方がご利用できます。

介護保険により施設でのショートステイの利用が困難な方で、医療的処置を行っている方も対象となります。

●ご利用について

1回の入院期間は、原則 14 日以内です。

発行日：令和8年2月吉日

発行：遠賀中間医師会おなが病院・おかがき病院

編集：おなが病院・おかがき病院広報委員会